

環境への負荷を減らすため

ごみの収集とその処分には、ガソリンや電気などのエネルギーを大量に用いなければならない、さらには地球温暖化の原因となる排出ガスなどの発生も避けることができません。また、必要以上の包装などは資源の無駄となるだけでなく、生産から流通、そしてごみとして処理される過程の中で、多くのエネルギーを消費しています。

待ったなし! ごみ減量

シリーズ
187万都市の
課題

このページに関するお問い合わせは
環境局計画課 ☎211-2912へ
ごみに関する情報は、ホームページもご覧ください。
<HP> <http://www.city.sapporo.jp/seiso/>

を ばならないのか

処理費用を軽減するため

ごみ処理の費用は、大まかに言うと、「収集車のごみを集めて清掃工場などへ運ぶ費用」と「清掃工場などで処分する費用」とに分けられます。平成15年度で見ると、処理費用は合計で約294億円。この金額は、小学校13校分の建設費に相当し、市民一人当たり換算すると約15,800円、40リットルのごみ袋一つ当たりでは約164円となります。

問題提起

札幌市長
上田文雄



ごみ収集日の朝——皆さんも、近所のごみステーションで、ごみ袋の大きな山を目にしているのではないのでしょうか。

市では、平成26年度を見据えたごみの減量目標（10年度比で15%以上削減）を定め、皆さんにも分別などへの積極的な協力をお願いしてきました。しかし、現状のまま推移すると、目標の達成は非常に困難な状況となっています。

将来の世代に、「世界に誇れる環境の街さっぽろ」を引き継いでいくために、ごみ袋に詰め込む「ごみそのもの」をいかに少なくしていくのか。それは、まさに187万札幌市民に共通する「待ったなし」の課題と言えます。そこで、あらためて、ごみの減量について皆さんと議論させていただきたいのです。

今月から始まるこのシリーズ企画で、「これからのごみ減量」について一緒に考えていきたいと思います。

公募委員を含めて
2年間議論しました

「ごみゼロ会議」からの提言

15・16年度の2年間、札幌市のごみ問題について自由に議論してきた「さっぽろごみゼロ会議」。公募による市民、事業者ら12人の委員から、昨年12月、議論の集大成となる報告書が提出されました。「これからのごみ減量」はどうあるべきか——報告書の主なポイントを紹介します。

ごみの発生を抑制するよう、市民の意識を高める

【トピックス】出前講座もご利用ください(⇒P10・11参照)。



家庭・地域を中心に、生ごみの発生と排出を抑制する

【トピックス】市では、「生ごみ堆肥化」に取り組むグループを支援しています(⇒P32参照)。

集団資源回収を中心に、多様な手法で紙類を回収する

【トピックス】昨年7月から、区役所または区民センターにも「古紙回収ボックス」を設置しています。

